

京劇における《上口字》について

安 念 一 郎

まえがき

本稿は『京劇の言語に関する研究』の一環として既に発表済みの京劇言語シリーズ三篇に続くものであり、各篇それぞれ相互に関連しているので念のため発表号数を掲げ、関連事項参照の便に供することにする。

第一篇 京劇の十三辙について

(本学アジア研究所紀要創刊号)

第二篇 京劇の慣用語句について

(本学教養部紀要第十一号)

第三篇 京劇における《尖團》について

(本学教養部紀要第十五号)

第四篇 京劇における《上口字》について

(本学教養部紀要第十七号)

なお、不体裁ではあるが上記四篇をつうじての目次は本稿末尾のあとがきのなかに載せておくことにした。

* * *

古典京劇は中国語で《京戲》とも《京劇》ともいうが、曾ては《平劇》とも呼ばれていたことがある。現在これを日本読みするばあい、呉音でキョウゲキという人と漢音でケイゲキという人とがある。まあどちらでもよいのだが、一般にキョウゲキという人のほうが多いようだし、私もそのほうが無難だと思っている。さて、本稿では主として《上口字》の実際面に

おける運用について論述し、さらに《四呼》と《五音》、《倒字》と《飄音》の関係についても些か言及してみたい。

I. 上口字

京劇のうたやせりふには、北京語で音読する字と、南方の方言音で読む字との二通りあって、後者に属する字をすべて《上口字》と呼んでいる。つまり、読みかたが現在の北京語音と違う字はすべて《上口字》といえると考えてよい。

したがって、教養部紀要第十五号に述べた《尖字》と《團字》のうち、《團字》は北京音と同じであるから、《上口字》でないことはもちろんであるが、《尖字》はすべて《上口字》といえるわけである。《上口字》には《尖字》のほか、次に述べるように数多くの字がある。ただ、《尖字》だけは通常《尖團不分（尖字と團字の区別がなされていないこと）》とか、《反團為尖（團音で読むべき字を誤って尖音で読むこと）》とか言われるように、《團字》と比較対照して云々される場合が多いので、一般に《上口字》であるといって北京音と区別するよりは、むしろ《尖字》ということ、北京音のうちでも、とくに《團字》との区別を云々する人のほうが多い。もっと厳密に言うならば、青は北京音でくゝであるが、《尖字》であるからちゝと変化し、さらに、あとで述べる《上口字》の規則 1. の(4)によってゝはくゝと変化するため、《韻白》の場合ではちゝと発音するわけである。また、たとえ北京語に現存する語音であっても、その字の本来の北京音で読まれるのでなければ、その字も当然《上口字》と言える。例えば、戸々という語音は北京語のなかに実在し、《深・身・神・審・甚……》などはいずれもそうである。ところが、《生・聲・昇・繩・聖……》などのように、北京語で戸と発音されている字は、《韻白》の場合には、1. の(3)の規則によってすべて戸と読まなければならないのであって、それらの字の本来の北京語音で読まないものであるから、これらもやはり《上口字》だ

ということである。《深・身・神・審・甚……》などのように、京劇の《韻白》のなかでも北京音で発音される字は、もちろん《上口字》とはいえない。

次に《上口字》をいくつかの系統に分類して観察してみたい。

1. 附声母音ㄥの変化

注音符号のㄥは後鼻音(ng)が韻尾についた附声母音であり、うたやせりふが《韻白》ですすめられるときは、次のように《上口(その字本来の北京音でない発声)》しなければならない。

- (1) 子音のㄅ・ㄆ・ㄇの次にくるㄥは、ㄨㄥまたはㄨと変化する。以下表中*印を付した字は音や声調が二つ以上あることを示す。声調は①②③④で示し入はもと入声の字であったことを示す。

上 口 字	上口音	北京音
①縑④躡	ㄅㄨㄥ	ㄅㄨ
①崩仔	ㄅㄨ	
②朋棚棚鵬蓬篷夙③捧④碰掙	ㄆㄨㄥ	ㄆㄨ
①烹怦怦碎澎*②彭澎*	ㄆㄨ	
①朦*②盟蒙檬濛矇矇矇矇蒙*③猛猛猛* ④孟夢	ㄇㄨㄥ	ㄇㄨ
②萌氓	ㄇㄨ	

[注]

《奔・本……》などは北京音でも、京劇の《韻白》のなかでも同様にㄅㄨと発音するので《上口字》ではない。

また、上述の説明からもわかるように、《韻白》のなかには、北京語のようにㄅㄨ、ㄆㄨ、ㄇㄨと発音する字はまったく存在しない。

- (2) 子音のㄐの次にくるㄥは、すべてㄨㄥと変化する。

上 口 字	上口音	北京音
①丰峯峰峰鑿烽鋒風楓諷瘋封葯豐禮鄧②馮逢 縫③啐④奉俸風諷鳳縫	ㄐㄨㄥ	ㄐㄨㄥ

すなわち、《韻白》では、ㄐㄨㄥと発音する字は、まったくないということである。

(3) 子音ㄍ・ㄨ・ㄝ・ㄨ・ㄆ・ㄍ・ㄍ・ㄎ・ㄉ・ㄉ・ㄋ・ㄣ・ㄋ・ㄎ・ㄎ・ㄌの次にくるㄥは、いずれもㄨと変化する。

上 口 字	上口音	北京音
①登・澄・鎧・灯③等・馱④堯・憮・澄・鄧・澄・鎧・磴・澄	ㄍㄨ	ㄍㄨ
②疼・滕・藤・籐・騰・騰・騰	ㄨㄥ	ㄨㄥ
②能	ㄋㄨ	ㄋㄨ
②蓀・楞・稜・稜③冷④楞・陵	ㄌㄨ	ㄌㄨ
①庚・賡・更・更・溟・杭・稔・稔・羹・耕・咩 ③梗・埂・頃・緁・颺・鯁・耿④更	ㄍㄨ	ㄍㄨ
①坑・吭・鏗・徑	ㄎㄨ	ㄎㄨ
①亨・哼②恆・珩・珩・衡・衡	ㄉㄨ	ㄉㄨ
①爭・曄・曄・筆・諍・錚・捰・捰・正・征・怔・鉦・蒸・蒸・徵・癢・丁③整・拯④正・政・症・證・証・鄭	ㄉㄨ	ㄉㄨ
①鯉・瞠・撐・撐・稱②呈・程・程・醒・澄・激・懲・滕・振・乘・丞・承・成・城・盛・成・晟・鍼③逞・聘④稱・秤	ㄉㄨ	ㄉㄨ
①生・牲・笙・甥・聲・升・昇・陞・勝②繩・滙③省・省④勝・膿・剩・乘・慳・盛・聖	ㄕㄨ	ㄕㄨ
①扔②仍・仍③扔	ㄋㄨ	ㄋㄨ

①曾 [*] ・增・憎・繪・罽④贈・甌	ㄗㄨㄥ	ㄗㄨㄥ
①憎②曾 [*] ・層④贈	ㄗㄨㄥ	ㄗㄨㄥ
①僧	ㄘㄨㄥ	ㄘㄨㄥ

〔注〕 横は北京語でㄘㄨㄥと発音するが、《韻白》ではㄘㄨㄥと特殊な変化をし、ㄗㄨㄥとは読まない。

(4) 結合母音ㄨㄥは、すべてㄨㄥと変化する。

上 口 字	上口音	北京音
①英・瑛・嬰・鸚・嬰・痠・櫻・櫻・櫻・嬰・ 應 [*] ・鷹・膺②熒・營・塋・螢・榮・榮・塋・ 澄・盈・楹・羸・瀛・羸・羸・迎 [*] ③影・ 郢・穎・穎・痠④映・應 [*] ・硬・媵・迎	ㄨㄥ	ㄨㄥ
①氷・冰・兵・浜 [*] ・并 [*] ③丙 [*] ・柄 [*] ・曷 [*] ・邛 [*] ・ 餅 [*] ・屏 [*] ・秉④并 [*] ・併 [*] ・摒 [*] ・並 [*] ・柄 [*] ・病	ㄅㄨㄥ	ㄅㄨㄥ
①兵 [*] ・媵②平 [*] ・評 [*] ・坪 [*] ・枰 [*] ・萍 [*] ・屏 [*] ・瓶 [*] ・餅 [*] ・ 餅 [*] ・併 [*] ・憑 [*] ・馮 [*] ・憑 [*] ・凭 [*] ④聘	ㄅㄨㄥ	ㄅㄨㄥ
②明 [*] ・盟 [*] ・名 [*] ・銘 [*] ・茗 [*] ・酪 [*] ・冥 [*] ・莫 [*] ・暝 [*] ・瞑 [*] ・ 溟 [*] ・螟 [*] ・鳴③茗 [*] ・酪 [*] ・命	ㄇㄨㄥ	ㄇㄨㄥ
①丁 [*] ・釘 [*] ・仃 [*] ・玎 [*] ・叮 [*] ・疔③頂 [*] ・酊 [*] ・鼎④定 [*] ・ 錠 [*] ・錠 [*] ・梃 [*] ・釘 [*] ・訂 [*] ・釘	ㄉㄨㄥ	ㄉㄨㄥ
①汀 [*] ・聽 [*] ・廳②廷 [*] ・庭 [*] ・蜓 [*] ・霆 [*] ・亭 [*] ・停 [*] ・婷 [*] ・ ③挺 [*] ・挺 [*] ・艇 [*] ・町④聽 [*]	ㄊㄨㄥ	ㄊㄨㄥ
②寧 [*] ・擘 [*] ・擗 [*] ・擗 [*] ・擗 [*] ・甯 [*] ・凝③擗 [*] ④佞 [*] ・甯 [*] ・ 寧	ㄆㄨㄥ	ㄆㄨㄥ
①拎②零 [*] ・伶 [*] ・齡 [*] ・鈴 [*] ・苓 [*] ・聆 [*] ・囹 [*] ・齡 [*] ・鈴 [*] ・ 鶯 [*] ・齡 [*] ・伶 [*] ・玲 [*] ・瓴 [*] ・翎 [*] ・鈴 [*] ・凌 [*] ・凌 [*] ・陵 [*] ・ 綾 [*] ・菱 [*] ・靈 [*] ・甯 [*] ・樞③領 [*] ・嶺④令 [*] ・另	ㄌㄨㄥ	ㄌㄨㄥ
①旌 [*] ・睛 [*] ・精 [*] ・菁 [*] ・箐 [*] ・晶③井 [*] ・阱 [*] ・穽 [*] ・④	ㄆㄨㄥ	

淨・淨・靜・靖・靚	(尖音)	
①京・鯨・驚・經・莖・涇・兢・荆・粳・更・ 耕・杭③景・憬・璟・頸・劉・警・傲④竟・ 境・鏡・獍・敬・徑・逕・勁・瘃・脛・競	ㄐㄧㄥ (團音)	ㄐㄧㄥ
①青・清・蜻・鯖②情・晴③請	ㄑㄩㄥ (尖音)	ㄑㄩㄥ
①輕・卿・傾②傾・擎・檠・黥・剌③頃④磬・ 磬・馨・慶	ㄑㄩㄥ (團音)	
①星・腥・猩・猩③省・醒・惺・擯④姓・性	ㄓㄩㄥ (尖音)	ㄓㄩㄥ
①興④釁・馨・衅・掀・幸・倖・倖・倖・行・ 苻・杏・興	ㄓㄩㄥ (團音)	

〔注〕

1. 北京語音ㄓㄩㄥが《韻白》ではㄐㄩㄥと変化することについては《上口字》9.を参照。
2. 北京語音ㄐㄩㄥ・ㄑㄩㄥ・ㄓㄩㄥの変化については教養部紀要第十五号「京劇における《尖團》について」を参照。
3. 訊・迅・汛などは北京語音ではいずれもㄓㄩㄥであるが、《韻白》では《上口字》となり、ㄓㄩㄥと発音される。
4. ㄥを単独で発音する字は《翰》だけであるが、《韻白》では《上口字》となり、ㄥと変化する。

2. 捲舌音の変化

北京語で 出 (ㄇ), イ (ㄇ), 尸 (ㄇ), 日 (ㄇ) と読まれる字, および 出ㄨ, イㄨ, 尸ㄨ, 日ㄨ と読まれる字は, 京劇の《韻白》では, いずれも次のように二通りに分けられる。

- (1) 北京の話しことばで 出, イ, 尸, 日 と読まれる字は, すべて後半に特殊母音 ㄨ を伴うが, 《韻白》では次の表で区別したように, 子音 出, イ, 尸, 日 のあとに母音 ㄨ がついて《上口字》となるものと, そうで

なく北京語と同じ要領で発音するものとの、二通りに分けられる。

上口字となるもの	上口字とならないもの
ㄊ ①知・痴②入汁織職執摯繫 質據踖蹠擲直殖植值姪侄桎 蛭窠秩秩炙陟驚④智致緻質 輕制製置治稚穉時痔彘滯雉 豸幟	ㄊ(ㄊ) ①支枝肢之芝脂厄梃祗抵入 隻③紙只軹枳咫旨指砥滯止 汙祗址趾芷祉時莖微④至擊 驚贄志誌痣
ㄝ ①搞竈鴟絺郗癡痴管蝨蠹蠹 瞞眈②池弛馳遲擇持篋踟入 喫吃尺叱赤斥敕勅飭扶③侈 哆耻褫④熾	ㄝ(ㄝ) ①差③齒④翅嘗
ㄝ ②入十什拾實石碩食蝕虱寔 濕失室釋適識式拭拭飾④世 食勢逝誓	ㄝ(ㄝ) ①施師獅獅尸屍奢詩②時時 蒔鱗匙入射③弛豕矢屎史使 駛始④鼓嗜示視諡試弑使侍 侍事窳噬是氏舐市士仕柿
ㄨ ②入日	ㄨ(ㄨ) 該当する字なし

[注] 1. 隻は《入声》の字であるが、《韻白》では第二声とならず、北京語同様に《調類》は第一声であることに注意しなければならない。

2. 清の時代に沈乘麐が著わした《曲韻驪珠》という発音字典がある。このなかでは、《入声》の字を除くすべての字が21韻に、《入声》の字が8韻に分類されている。京劇の《韻白》ではㄊ(ㄊ)、ㄝ(ㄝ)、ㄝ(ㄝ)、ㄨ(ㄨ)とㄊ |、ㄝ |、ㄝ |、ㄨ | について次のような規則がある。

(イ) 《曲韻驪珠》のなかで分類された韻のうち、《機微》、《質直(入声)》の二つの韻のはじめに子音ㄊ、ㄝ、ㄝ、ㄨのついた字はすべて《上口字》となり、ㄊ |、ㄝ |、ㄝ |、ㄨ | と発音しなければならない。

(ロ) 《支思》韻のはじめに子音ㄊ、ㄝ、ㄝ、ㄨのついた字は《上口》しないで、北京語同様にㄊ(ㄊ)、ㄝ(ㄝ)、ㄝ(ㄝ)、ㄨ(ㄨ)と発音する。

(ハ) 上の表はこの規則によって分類したものであるが、そのうち○印のある《上口字》は、習慣上必ずしも《上口》されておらず、北京音で

出(市), イ(市), 尸(市), 日(市)と発音する者も多いようである。また○印のついてない《上口字》のうちにも隣接する字の発音との関係上, 《上口音》では読みづらい場合があるが, そのような時は, これも習慣に従って北京音で発音したほうが却って耳ざわりもよいと言われている。この点についてはアジア研究所紀要創刊号「京劇の十三韻について」のなかの●日についての説明(121頁以下)を参照されたい。

(2) 北京の話しことばで出メ, イメ, 尸メ, 日メと読まれる字は, 《韻白》では次の表で区別したように, 出ㄌ, イㄌ, 尸ㄌ, 日ㄌと発音されて《上口字》となるものと, 北京語のとおりに出メ, イメ, 尸メ, 日メと発音されるものとの二通りに分かれる。

上 口 字 と な る も の		上 口 字 と な ら ない も の	
出ㄌ	①朱殊菜殊侏株珠殊銖諸猪猪③主拄蔗煮渚貯④箸薯翥宁佇苧紵住注柱拄註駐鑄	出メ	②入竹竺筑築逐軸蚰燭蠟燭囑囑粥祝④助
イㄌ	①樞樗攄②除滁蝓儲踏厨櫨蹶入出黜絀齣怵③楮褚紓杵儲處④處	イメ	①初②芻雛鋤鋤入畜搐觸于叙③楚礎
尸ㄌ	①書舒紓輸殊殊女②入尢述術秫沭③墅署暑鼠黍抒④恕庶署曙戍樹樹豎	尸メ	①疏疎蔬梳②入叔菽淑蜀屬孰熟塾贖倏束③數④漱數
日ㄌ	②如如儒孺孺孺襦蠕乳汝	日メ	②入辱褥褥綉尊肉入

[注]

- 樞, 樗, 攄は北京音ではいずれも尸メであるが, 《韻白》では尸ㄌとならないでイㄌと変化する。
- 出メ, イメ, 尸メ, 日メと出ㄌ, イㄌ, 尸ㄌ, 日ㄌについては次のような規則がある。

(イ) 《曲韻驪珠》のなかで分類されている韻のうち, 《居魚》韻と《恤

律(入声)》韻の二つの韻のはじめに子音出、イ、尸、日をついた字は、京劇の《韻白》では《上口字》となり出、イ、尸、日と発音しなければならない。

(ロ) 《姑模》韻と《屋讀(入声)》韻の二つの韻のはじめに子音出、イ、尸、日をついた字は《上口》されず、北京語と同じ要領で出、イ、尸、日と発音する。

(ハ) 以上が原則であるが、従来《上口字》のうちでも○印のついた字は必ずしも原則どおりには読まれておらず、北京音で出、イ、尸、日、日と発音する場合が多いようである。

(3) 北京の話しことばで日メと読む字は《韻白》では次のように日と発音して《上口字》になるものと北京語と同様に日メと発音するものとの二通りに分けられる。

上口字となるもの		上口字とならないもの	
日	②容溶榕蓉鎔熔榮鏗融	日メ	②戎絨茸③冗冗

3. 北京語でフ、フ、フと読む字のうち多くの字は《上口字》となってフ、フ、フと発音される。

上口字となるもの		上口字とならないもの	
フ	①般搬瘢④半伴拌絆片	フ	①班斑斑頒版③板版板版④扮辦辦
フ	①番番②盤槃磐蟠幡④判叛 泮畔拚	フ	①攀④盼
フ	②瞞瞞③饜饜④滿④曼慢 漫蔓蔓幔縵縵	フ	①②蠻

[注] 韻は口語音の場合《上口字》とならない。

4. 母音フ、フは次のように変化する。

(1) 北京語で子音ㄅ, ㄆ, ㄇの次にㄛがついて読まれる字は次の表のように、それぞれ二通りに分かれる。

上 口 字 と な る も の		上 口 字 と な ら ない も の	
ㄅㄛ	②入白百伯佰栢帛北	ㄅㄛ	①波菠破破𪗇②入悖鉢撥剔 悖襍勃浹渤踔鉞泊舶鉞箔博 搏薄礪駁電葡亭孽③跛𪗇④ 播𪗇
ㄆㄛ	②入迫珀拍魄	ㄆㄛ	①坡頗②娑鄒幡入潑粕朴③ 叵𪗇④破
ㄇㄛ	②入墨嚙默麥嘜陌脈脉驀 万	ㄇㄛ	①摸②模摹謨饒謨謨麼摩 魔磨磨入沒歿末萊沫沫莫 漠寞膜瘼④磨

(2) 説は句の末尾にあって他の句の末尾にある字と韻尾を合わせる必要上、《京白》でㄆㄨㄛと発音することもあるが、さもなければ原則として《上口字》となり、ㄆㄨㄛと発音する。

(3) 北京語で子音ㄍ, ㄎ, ㄏの次にㄜがついて読まれる字は次の表のように分かれる。

上 口 字 と な る も の		上 口 字 と な ら ない も の	
ㄍㄜ	②入合蛤鴿閣各 擱割葛	ㄍㄜ	①哥歌譚戈④個 个箇
ㄎㄜ	②入渴恪殼溘榼 磕嗑	ㄎㄜ	①科蝌苛柯珂疴 軻窠顆棵②入刻 客③可岢珂𪗇 ④課
ㄏㄜ	②禾和穌何河荷 入喝盒盒郤壺闔 閤嗑曷褐貉涸鶴 郝黑	ㄏㄜ	①訶呵④賀和荷
		ㄆㄜ	②入訖𪗇𪗇核 闕𪗇𪗇赫嚇 黑

- (4) 北京語で母音 ɔ を単独に発音する字は次の表のように、すべて《上口字》となり、四種類に分かれる。

上 口 字			
兀 ɔ	兀 ɔ	兀 ɔ	ɔ
②入額厄扼阨呃 軛	②訛譌俄娥鵝 峨菝哦入萼愕鄂 顎鵞愕諤錫鏹纏 驅惡噁遏	③我④餓	①阿 [*] 婀

5. 北京語で単独に ɿ ・ ɛ ・ ɤ ・ ɤ ・ ɤ ・ ɤ と発音する字は次の表のように《上口字》となるものが多い。

上口字となるもの		上口字とならないもの	
兀 ɿ	①哀② [*] 呆③ [*] 皔④ [*] 款 [*] 講 [*] 靄 ④愛媛暖爨艾隘隘餓 礙碍	ɿ ɿ	②捱挨挨 ③矮
兀 ɛ	②敖熬嗷嗷遨遨螯螯熬 [*] 鞣 [*] 鞣 [*] ③襖 [*] 縕④ 奧澳澳拗拗傲傲	ɛ	①凹 [*]
兀 ɤ	①區歐歐鷗鷗 [*] 謳 [*] 謳 [*] ③嘔 [*] 偶耦藕④漚漚 [*] 嘔 [*]	ɤ	(該当するものなし)
兀 ɤ	①安鞍庵菴龔諳 [*] ④按案岸暗闇黯	ɤ	①俺
兀 ɤ	①恩④摠	ɤ	(該当するものなし)
兀 ɤ	①航航②昂昂④盎	ɤ	(該当するものなし)

6. 北京語で単独に ɤ と発音する字は次の表のように《上口字》となつて ɤ と読むものと北京語と同様に ɤ と読むものとに分かれる。

上口字となるもの	上口字とならないもの		
ɤ ɤ	②微薇惟唯 帷維③尾媿 ④未味	ɤ ɤ	①萎透威噉噉 [*] 煨煨 [*] ②爲危桅圩韋違圍幃闈窺 巍③委痿痿 [*] 馱 [*] 涓 [*] 涓 [*] 涓 [*] 葦 [*] 葦 [*] 葦 [*] 緯 [*] 緯 [*] 隄 [*] 隄 [*] ④爲 [*] 爲 [*] 畏餵餵 [*] 喂 [*] 位 [*] 遠 [*] 尉 [*] 蔚 [*] 胃 [*] 謂 [*] 謂 [*] 涓 [*] 涓 [*] 魏 [*] 衛 [*] 衛 [*]

7. 北京語でㄨと発音する字は、すべて《上口字》となり、ㄨと読む。

上 口 字	
ㄨ	①非扉霏啡非 [*] 緋蜚飛妃②肥泚腓③匪非 [*] 斐 [*] 誹 [*] 緋 [*] 篋 [*] 翳④費沸菲肺 帶吠廢

〔注〕 京劇の《韻白》にはㄨと読む字はない。

8. 北京語でㄨㄛと発音する字は、すべて《上口字》となり、それぞれㄨㄛと読む。

上 口 字	
ㄨㄛ	③餒④内
ㄨㄛ	②羸嫫壘曩纒雷 [*] 搯 [*] ③蓄齷備壘磊未誅 [*] 累 [*] 潔④累 [*] 類 [*] 淚 [*] 汨 [*] 播 [*]

〔注〕 京劇の《韻白》にはㄨㄛと読む字はない。

9. 母音ㄨ、ㄨおよびㄨ、ㄨを韻頭とする結合母音の前につく子音ㄨは、すべて《上口音》となり、ㄨと変化する。

上 口 字		北京音
ㄨ	②尼 [*] 泥 [*] 昵 [*] 妮 [*] 倪 [*] 霓 [*] 輓 [*] 麗 [*] 嶷 [*] 入 [*] 匿 [*] 睨 [*] 怒 [*] 溺 [*] 逆③你 [*] 禰 [*] 施 [*] 擬④ 膩 [*] 腕 [*] 泥 [*]	ㄨ
ㄨㄛ	②入 [*] 聶 [*] 躡 [*] 鐸 [*] 臬 [*] 闕 [*] 銖 [*] 涅 [*] 捏 [*] 陴 [*] 孽 [*] 孽 [*] 齧 [*] 攝 [*]	ㄨㄛ
ㄨㄨ	③鳥 [*] 鳶 [*] 婁 [*] 嫫 [*] 嫫 [*] 嫫 [*] ④溺 [*] 尿 [*]	ㄨㄨ
ㄨㄨ	①媯②牛③扭 [*] 紐 [*] 鈕 [*] 鈕 [*] ④拗 [*]	ㄨㄨ
ㄨㄨ	①蕎②年 [*] 粘 [*] 黏 [*] 黏 [*] 拈 [*] ③捻 [*] 碾 [*] 輾 [*] 輦 [*] 輦 [*] ④念 [*] 唸 [*] 廿	ㄨㄨ
ㄨㄨ	②您	ㄨㄨ
	②寧 [*] 寧 [*] 寧 [*] 寧 [*] 甯 [*] 甯 [*] 疑 [*] ③擰 [*] ④佞 [*] 甯 [*]	ㄨㄨ
ㄨㄨ	②娘 [*] 孃 [*] ④釀	ㄨㄨ
ㄨㄨ	③女	ㄨㄨ

ㄨㄛ	②入虐瘡謔	ㄅㄛ
----	-------	----

〔注〕 ㄅㄛがㄨㄛと変化することについては次項を参照のこと。

10. 北京語でㄛと発音する字（前に子音のつく字を含む）は《上口字》となってㄨㄛと読むものと、北京語のとおりに読むものとの二通りに分かれる。

上口字となるもの		上口字とならないもの	
ㄛ	②入岳 ^{***} 嶽 ^{***} 約 ^{***} 葯 ^{***} 樂 ^{***} 藥 ^{***} 躍 ^{***} 龠 ^{***} 籥 ^{***}	ㄛ	②入曰 ^{***} 粵 ^{***} 噉 ^{***} 軌 ^{***} 月 ^{***} 玥 ^{***} 悅 ^{***} 閱 ^{***} 越 ^{***} 樾 ^{***} 鉞 ^{***} 約 ^{***} 岳 ^{***} 嶽 ^{***}
ㄨㄛ	②入虐瘡謔	ㄅㄛ	該当する字なし
ㄨㄛ	②入略掠 ^{**}	ㄨㄛ	②入略掠 ^{**}
ㄨㄛ	②入角 ^{****} 脚 ^{****} 覺 ^{****} 覺 ^{****} 攫 ^{****} 攫 ^{****}	ㄨㄛ	②入決 ^{***} 扶 ^{***} 決 ^{***} 訣 ^{***} 缺 ^{***} 鳩 ^{***} 噉 ^{***} 倔 ^{***} 掘 ^{***} 峴 ^{***} 孺 ^{***} 譎 ^{***} 厥 ^{***} 剛 ^{***} 厥 ^{***} 厥 ^{***} 厥 ^{***} 厥 ^{***} 厥 ^{***} 擷 ^{***} 擷 ^{***} 角 ^{***} 脚 ^{***} 覺 ^{***} 覺 ^{***} 攫 ^{***}
ㄨㄛ	②入爵 ^{**} 嚼 ^{**}	ㄨㄛ	②入絶 ^{**} 爵 ^{**} 嚼 ^{**}
ㄨㄛ	②入卻 [*] 却 [*] 榷 [*] 榷 [*] 確 [*] 確 [*]	ㄨㄛ	②入癩 ^{***} 卻 ^{***} 確 ^{***} 榷 ^{***} 榷 ^{***} 闕 ^{***} 闕 ^{***}
ㄨㄛ	②入雀 ^{**} 雀 ^{**} 鵲 ^{**}	ㄨㄛ	②入雀 ^{**} 雀 ^{**} 鵲 ^{**}
ㄨㄛ	②入學 [*]	ㄨㄛ	①靴②入學 ^{***} 穴 ^{***} 血 ^{***}
ㄨㄛ	②入削	ㄨㄛ	②入薛 [*] 雪 [*]

〔注〕 北京語に現存しない音を《上口音》というからには《尖音》でㄅㄛ、ㄨㄛ、ㄨㄛと読む字は当然《上口字》である。しかし、ここではㄨㄛとㄛについての読みわけかたのみを取りあげて説明している関係上、結合母音ㄛが変化しないものは《尖字》であっても一応は便宜上から「上口字とならないもの」の欄に書入れておいた。

説は京劇の《韻白》では通常《上口音》でㄨㄛと発声することが多い。

11. 北京語で子音ㄨ、ㄨの次につく結合母音ㄛは《上口音》となって

ㄨと変化するものと北京語の通りに読むものとの二通りに分かれる。
《尖音》のㄨㄣㄣ, ㄨㄣㄣ, ㄨㄣㄣのうち、ㄣㄣがㄨㄣと変化する字は
ない。

上ロ字となるもの(《入声》以外の字)	上ロ字とならないもの(《入声》の字)
ㄨㄣㄣ ①皆借借借借借借借借③解 ④介芥价价价价价价价价 解解	ㄨㄣㄣㄣ ②入刼刼刼潔潔結桔詰劫 擷韻揭桀傑杰羯竭謁訖 子
ㄨㄣㄣㄣ ②骸鞋諧③蟹④解選懈解 薤滌駭械	ㄨㄣㄣㄣㄣ ②入血穴歇蠍蝟協颯脅脅 叶洩俠挾頤擷嶺繫滌

12. 《尖字》の発音は北京語の発音とは違っており、従って《尖字》はすべて《上ロ字》と言うことができる。

[注] 《尖字》という呼称は《圍字》に対して用いられるものであり、ほかの《上ロ字》とは区別して考えることができる。《尖字》については教養部紀要第十五号所載の「京劇における《尖圍》について」の項を参照されたい。

13. 其の他

以上のほか、「喊，横，矛，森」などは特殊な変化をする。すなわち、
喊はㄨㄣㄣㄣ，横はㄨㄣㄣㄣ，矛はㄨㄣㄣㄣ，森はㄨㄣㄣㄣ，洩，颯，餽，覓など
はいずれもㄨㄣㄣㄣ，囚，泗はㄨㄣㄣㄣ，覆は「かぶせる」意味のときはㄨㄣㄣㄣ，
また祚，昨はㄨㄣㄣㄣ，樞，樗，攄はㄨㄣㄣㄣ，駟はㄨㄣㄣㄣというように《韻白》
のなかではいずれも変化して《上ロ字》となる。

[参考] 1. 以上《上ロ字》として挙げた字のほかは、すべて《韻白》の
なかでも《上ロ字》とはならず、北京語音のとおり発音する。
2. 茂，質などはいずれも北京語でㄨㄣㄣㄣ，ㄨㄣㄣㄣと二通りの読みかたが
あるが，《韻白》ではㄨㄣㄣㄣと発音する。また，擷は北京語ではㄨㄣㄣㄣ，
ㄨㄣㄣㄣの二通りあるが，《韻白》ではㄨㄣㄣㄣだけである。これらはほんの
一例であって、このほかにも北京語では《破音字》に属し、二通り以

上の発音のしかたがある字でありながら、《韻白》では必ずしも二通り以上の読みかたをしない字も数多い。個々については《十三辙》をみて記憶するしかない。勿論これらは《上口字》ではないが知っておくほうがよい。交，着，銷，殺，滄なども北京語のㄟ，ㄟの二通りの発音のうち，《韻白》では、ㄟと読み、ㄟとは読まないし、若も《韻白》ではㄟと読むことはない。都も《韻白》ではㄟとしか読まないし、六はㄟと読んで北京における現在の話しことばのように六をㄟ，肉をㄟと読んだりするようなことはない。

次にせりふの簡単な一例をあげたが、その発音や四声などをこれまで述べた約束に従って発声してみれば、京劇における《韻白》の正しい発音と調子を大体会得することができよう。

《硃砂痣》韓員外（老生）のせりふ

(白) 此地孩童有些不便，除非是遠方若有相當的

(調類) 3 4 2 2 3 1 4 4 2 1 4 3 1 2 3 1 1 1
輕 輕 (尖字) 輕

(音) ㄇㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ
(尖字) (上口字) (上口字) ㄟ ㄟ (尖字) ㄟ

(調値)

(白) 孩童，買上一個教養成人也是我暮年有靠啊

(調類) 2 2 3 4 1 4 4 3 2 2 3 4 3 4 2 3 4 1
輕 輕

(音) ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ ㄟ
(上口字) (上口字) ㄟ ㄟ (上口字) (上口字)

(調値)

II. 四呼と五音

うたやせりふを正確に発音するには口の形と発音部位が正しくなければならぬ。漢字を発音するとき、口の開けかたに四つの形があり、これを《四呼》といっているが、言いかえれば韻母すなわち母音を発音するときの口の形は次の四つに分類することができるということである。

1. 開口呼……Y, ㄛ, ㄜ, ㄝ, ㄞ, ㄟ, ㄠ, ㄡ, ㄢ, ㄣなどの母音は前に子音がついていてもいなくても、口はわりに大きく開き、舌面の位置は低い。一字の母音がㄷ, ㄸ, ㄹ以外のもの、およびㄷ, ㄸ, ㄹを韻頭とした結合母音でないもの、例えば「阿, 把, 握, 摸, 奢, 愛, 代, 歛, 美, 凹, 到, 寇, 俺, 談, 很, 張, 登, 兒」などはいずれもこの口形に属する。
2. 齊齒呼……子音の有無にかかわらず、一字中の母音がㄷまたはㄷを韻頭とする結合母音であるもの、例えば「衣, 題, 牙, 家, 有, 球, 爺, 写, 腰, 表, 宴, 点, 因, 心, 英, 姓, 仰, 兩」などいずれも韻頭のㄷは口の開けかたがわりに小さく唇を左右にしっかりひきしめて発音し、舌面の位置が高い。これが齊齒呼の口形である。
3. 合口呼……子音の有無にかかわらず、一字中の母音がㄹまたはㄹを韻頭とする結合母音であるもの、例えば「無, 胡, 窪, 華, 握, 羅, 歪, 衰, 危, 歲, 丸, 官, 文, 吞, 望, 壯, 翁, 中」などいずれも注音符号のㄹが韻頭にあるが、これは鉛筆の先が入る程度に口をつぼめ、口腔の中はわりに広い空洞になり、舌面後部がもっとも高い。これが合口呼の口形である。
4. 撮口呼……子音の有無にかかわらず、一字中の母音がㄴまたはㄴを韻頭とする結合母音であるもの、例えば「於, 居, 月, 決, 遠, 泉, 雲, 羣, 永, 兄」など注音符号のㄴは尺八を吹くときの要領で口を思いきりつぼめる。外から見て口の開いている部分は合口呼より小さく、口腔内

の空洞はわりに狭くなり、舌面前部がもっとも高い。これが撮口呼の口形である。

すべての字は以上四つの口形のいずれかに属していることを十分に理解し、間違いないよう心がけるべきである。とくに京劇の《韻白》には《上口字》があって日常の北京語とは違った発音が多いのでとくに留意しなければならない。例えば般、班は北京語ではどちらも開口呼でㄅと読むが《韻白》では前者の般は《上口字》となってㄅㄨㄅと読み合口呼に属するので、口の形は変わってくる。同様に、位、未は北京語ではどちらも合口呼でㄨㄟと発音するが、《韻白》では後者の未は《上口字》となってㄨㄟと読み、齊歯呼となるので、両者の口形は同一でない。

また容、戎は北京語ではともに合口呼でㄨㄨㄥと発音するが、《韻白》では容は《上口字》となりㄨㄥと撮口呼で発音しなければならない。このように、母音を発音するさいの口の形に四通りあることがわかったのであるが、この《四呼》とともに軽視できないのが所謂《五音》である。

《五音》とは発音するときの口のどの部分を主としてつかっているかというところから大きく分けて五つとしたものである。これは、声母すなわち子音の発音についての分類であり、発音器官およびその部位によって次の五類に分けられる。

- | | | |
|-------------|---|------------------|
| 1. 唇音…………… | { | 双唇音……ㄅ・ㄆ・ㄇ |
| | | 唇歯音……ㄐ・ㄑ |
| 2. 舌尖音…………… | | ㄉ・ㄊ・ㄋ・ㄌ |
| 3. 舌根音…………… | | ㄍ・ㄎ・ㄎㄨㄥ |
| 4. 舌面音…………… | | ㄐ・ㄑ・ㄒ・ㄔ |
| 5. 舌葉音…………… | { | 捲舌音……ㄐㄨㄥ・ㄑㄨㄥ・ㄒㄨㄥ |
| | | 舌齒音……ㄆㄨㄥ・ㄑㄨㄥ・ㄌㄨㄥ |

子音の発音が正確でないと、我々が「寿司」をススと読んだり、「一時」をイツズ、「好き」をシキと読んで奇異に感じるように、中国語の場合でも耳ざわりである。ことに京劇では《四呼》とともに《五音》が厳格に守

られなければならない。うたには胡弓の伴奏がつくので観客は俳優の声と楽器の音とを同時に鑑賞しているわけである。ところがせりふには楽器の伴奏はつかず、観客の耳は俳優の声に向って集中する。したがって俳優はせりふをいう時はとくに《四呼》と《五音》に留意し、歯ぎれのいい、所謂《口勁》のある発音をするよう心がける必要がある。京劇界で「千金念白四兩唱」と言われているのをみてもうたよりせりふをいう時の発音がいかに重視されているかを察知することができよう。

観客の喝采を博したい一念から無気音の字をわざと有気音にして威勢よく発音する者があるが、これは勿論誤りである。有気音には独特の鋭い迫力のあることは、中国語を学んだ者の誰しもが知っているとおりであるが、なかでも々にはこれを強調して《噴口》という発声法があるくらいである。これはあくまでも有気音のうちでも々に限られるものであり、無気音の々を有気音に読んではいけない。また、唇音のうちでも唇音のㄨだけはその発音要領は有気音に準じ、々を発音するときと同じ要領で、つまり《噴口》の二字がもつ意味が示すとおり、はげしく息が口をついて出るようにしなければならない。例えば《失街亭》の孔明が唱う一節、

兩國交鋒龍虎鬪，各為其主統貔貅。

この鋒(ㄨㄨㄨ上口音)、貔(々)はいずれも《噴口》となる例である。

III. 倒字と飄音

北京における四声の音階と漢口における四声の音階が違うことは、教養部紀要第十五号「京劇における《尖團》について」の《調類》と《調値》のなかですでに述べたとおりであり、したがって同じ一つの字でも《京白》と《韻白》とではその調子が違ってくるのは当然である。《京白》の場合は北京の四声の音階で、また《韻白》の場合には漢口の四声の音階で発音しなければならない。四声についてのこうした約束を守らず、間違った調子でせりふを言えば《倒字》とって不評をまねくことは必至である。とき

として《花腔》という小節をきかした派手な節廻しをつかう役者を見かけることがあるが、そのようなとき第一声の字を第二声にしたり、第二声の字を第一声の調子で読んだり、所謂《陰陽顛倒》になることがある。これなども《倒字》であって正しい発声法とは言えない。《四呼》と《五音》さえ正確であればよいというのではなく、さらに正しい《声調》がそれに伴っていないなければならない。

《飄音》とはどんなことかという、京劇には発音のうえで多くの伝統的な約束があるが、それらのことが守られずに間違っただけで発音された場合にすべて《飄音(ㄨㄛˊ ㄩˊ ㄛˊ)》と言っている。これは《倒字》よりもずっと範囲が広く使われ、《尖團》の間違いはいうまでもなく、そのほか《四呼》《五音》《上口音》などの誤りなどもすべて《飄音》といわれている。飄という字はㄨㄛˊの第一声であり、ㄨㄛˊと第四声に読むのは正確には誤りであるが、誤った音ということを強調するために、この用語自体までもわざと誤った音で読むようになったといわれている。

あとがき

一九六五年、私は霞山会の機関誌である東亜時論二月号に「転換期に立つ京劇」と題する小論を書き、そのむすびに伝統京劇が再び脚光をあびる日のくることを心から期待したいと述べたが、一九七六年十月、江青一派のいわゆる《四人幫》が追放されるや、これまで《樣板戲》に限られていた演劇界によりやく伝統的演目が復活したのを知って感慨一入である。中国でも代表的な劇団といわれる北京京劇団がこの十年間に上演した演目は僅かにふたつしかなかったという。

旧京劇独特の《髯口》《靠旗》《行頭》《臉譜》なども再び舞台で見られるようになったわけだが、古典物に必要な派手な衣裳や底高の黒縹子製の靴やその他諸々の小道具類はとくに全部廃棄処分されていたはずであるのに、どうやらその一部は劇団の人たちがひそかにかくし、たいせつに保

存しておいたものに違いない。

《紅灯記》《海港》《智取威虎山》《沙家浜》《紅色娘子軍》《龍江頌》《奇襲白虎團》《平原作戰》《杜鵑山》などいわゆる《革命样板戲》と称するいくつかのごく限られた現代京劇を長いあいだ強制的に見せられ、いいかげん食傷気味だった広範な観衆にとってはまことに大きな朗報と言うべきだろうし、今後大衆にとっても多彩な娯楽性の提供となるであろうことは言を俟つまでもあるまい。

最後に京劇言語シリーズ四篇の目次を載せ、あとがきを終ることにする。

* * *

目 次

第一篇 京劇の十三轍について

1. 「引子」の例
2. 「定場詩」の例
3. 「數板」の例
4. 「唱詞」の例
 - (1) 麻沙轍 (Y)
 - (2) 梭波轍 (ㄛ, ㄜ)
 - (3) 邪乜轍 (ㄝ)
 - (4) 懷來轍 (ㄝ)
 - (5) 灰堆轍 (ㄝ)
 - (6) 遙迢轍 (ㄝ)
 - (7) 由求轍 (ㄝ)
 - (8) 言前轍 (ㄝ)
 - (9) 人辰轍 (ㄝ)
 - (10) 江陽轍 (ㄝ)
 - (11) 中東轍 (ㄝ)

- (12) 衣期轍（イ，ミ，市，儿）
- (13) 姑蘇轍（メ）
- (14) 灰堆轍と衣期轍の混用
- (15) 人辰轍と中東轍の混用

第二篇 京劇の慣用語句について

1. 「唱」直前の「白」
 - (1) 「思想起來，好不……人也」
 - (2) 「你且听了」
 - (3) 「掌燈」
 - (4) 「一言難盡」
 - (5) 「容稟」
2. 「大事不好！」「何事驚慌？」
3. 「恭喜○○，賀喜○○！」「喜從何來？」
4. “怎麼辦纔好呢？”
 - (1) 「這便如何是好？」
 - (2) 「這便怎麼處？」
5. 「要相逢除非是夢裡團圓」
6. 「敢麼是…嗎？」（「趕莫是…？」「敢莫是…？」）
7. 命令，願望の「者」
8. 「將身（且）…」
9. 「好比」「好一似」「好一比」「亞賽」「怎比」
10. 把字句
11. 「不由人」「不由我」「不由得」
12. 「不免」「不免……便了」
13. 「休要」「休得」「休」「休得要」
14. 「怎不叫人」
15. 「耳邊廂（又）听得」
16. 「但願（得）」

17. 「～日裏」

18. 其他の慣用短句

第三篇 京劇における《尖團》について

1. 韻白と京白
2. 調類と調値
3. 尖字と團字

第四篇 京劇における《上口字》について

I. 上口字

1. 附声母音ㄥの変化
 - (1) ㄅ, ㄆ, ㄇの次のㄥ
 - (2) ㄐの次のㄥ
 - (3) ㄑ, ㄒ, ㄓ, ㄔ, ㄕ, ㄖ, ㄗ, ㄘ, ㄙ, ㄨの次のㄥ
 - (4) 結合母音ㄨㄥの変化
2. 捲舌音の変化
 - (1) ㄗ, ㄘ, ㄙ, ㄨの変化
 - (2) ㄗㄨ, ㄘㄨ, ㄙㄨ, ㄨㄨの変化
 - (3) ㄨㄥㄨの変化
3. ㄑㄨ, ㄒㄨ, ㄇㄨの変化
4. 母音ㄛ, ㄜの変化
 - (1) ㄅ, ㄆ, ㄇの次のㄛ
 - (2) 説(ㄙㄨㄛ)
 - (3) ㄕ, ㄖ, ㄗの次のㄜ
 - (4) 単母音ㄜの変化
5. ㄑ, ㄒ, ㄓ, ㄔ, ㄕ, ㄖの変化
6. ㄨㄨの変化
7. ㄐㄨの変化
8. ㄑㄨ, ㄒㄨの変化

9. ㄩ, ㄨの前につくろ
 10. ㄨせの変化
 11. ㄨ, ㄨの次のㄨせ
 12. 尖字と上口字
 13. その他
- II. 四呼と五音
- III. 倒字と飄音